

**ミズナ** (野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	白さ病	根こぶ病	炭疽病	白斑病	立枯病	菌核病	リゾクトニア病	アブラムシ類	アザミウマ類	ハモグリバエ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	シロイチモジヨトウ	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	アオムシ類	ネキリノミハムシ	キスジノミハムシ	ダイコンハムシ	ヤサイゾウムシ	ケセンチュウ	ネロブセンチュウ
タチガレン液	32	*a	1	1					◎																	
ベンレート水◎	1		14	1			◎	◎																		
アミスター20FL	11		7	2	◎																					
フロンサイド粉	29	*c	1	1		◎																				
ロブラール水	2		45	2						◎																
リゾレックス水	14	*a	1	1						◎																
ダコニール1000FL	M5	*a	1	1					◎																	
ユニフォーム粒	4・11	*e	1	1	◎																					
スピノエース顆水	5		3	1								◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎								
ジェイエース溶	1B		21	1							◎															
ダイアジノン粒5	1B	*a	1																							
		*b																								
		*d																								
アディオソ乳	3A		1	3								◎						◎				◎	◎			
アドマイヤーFL	4A	劇	3	2							◎															
ダントツ溶	4A		7	3							◎															
ダントツ粒	4A	*a	1	1							◎															
ブレオFL	UN		1	2										◎		◎		◎								
アフファームエクセラ顆水	6・15		3	3											◎											

◎：チオファネートメチル含有剤 ◎：ペノミル含有剤 ①を使用した場合には同じ作での◎は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。  
 \*a:播種時 \*b:播種時又は定植時 \*c:播種前 \*d:出芽時 \*e:播種前又は定植前

## ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
立枯病	播種時	1. 土壤消毒を行う(土壤消毒の項参照)。 ガスタード微粒剤 30kg/10 a 2. 次の薬剤を1㎡あたり3 L土壤灌注する。 ダコニール1000(FL) 1000倍	本病はピシウム菌による。
白さび病	播種前または定植前	・ 次の薬剤を全面土壤混和する。 ユニフォーム粒剤 9 kg/10 a	露地栽培で発生する。 5～7月と10～12月の雨期に発生が多い。  *非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ピシロックフロアブル* 1000倍 ランマンフロアブル* 2000倍	
	収穫後	・ 収穫後の残渣はていねいにとり除き、畑にすきこまない。	
炭疽病	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発病株はただちに除く。 3. 発病畑周辺の除草を行う。 4. 発生が認められたら次の薬剤を散布する。 ベンレート水和剤 4000倍	露地栽培で発生する。6～10月に雨が続きと多発する。潜伏期間は3～4日でまん延が早い。圃場衛生等、予防に重点をおく。
根こぶ病	播種前または定植前	1. 高畝にする等、圃場、苗床の排水を良好にする。 2. 石灰施用により土壤酸度を矯正する。 3. 播種前に次の薬剤を処理する。 フロンサイト粉剤 全面土壤混和 30kg/10 a	各種アブラナ科作物に発生し、土壤伝染する。
	生育期	・ 発病株は根、特にこぶを圃場に残さないように早めに処分する。また収穫後、残さはていねいに処分し、畑にすきこまない。	
黒腐病	生育期	1. 雨よけ栽培すると被害は少なくなる。 2. 発病前から次の薬剤を予防的に散布する。 Zボルドー(水)* 500倍	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。  *野菜類での登録

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	播種時	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを播溝土壌混和する。 アルバリン粒剤* 6kg/10a スタークル粒剤* 6kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍 アドマイヤーフロアブル 4000倍 ウララDF* 4000倍 ジェイエース水溶剤 1500倍 モスピラン顆粒水溶剤* 4000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ハモグリバエ類	播種時	・パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に1mm以下の目合いの防虫網を設置する。	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤* 1000～2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍	
コナガ	播種時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 広範な地域で設置可能であればコナガコンプラス◇のいずれかの剤を、作物の上に設置する。 ツインチューブ製剤 100～120本/10a ローブ状製剤 20～40m/10a 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* <sub>1</sub> 1000～2000倍 コテツフロアブル* <sub>2</sub> 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 プレバソンフロアブル5 * <sub>2</sub> 2000倍	◇成虫の交尾阻害が目的。使用にあたっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。オオタバコガ・ヨトウムシに対する登録も持つ。  * <sub>1</sub> 野菜類での登録 * <sub>2</sub> 非結球アブラナ科葉菜類での登録

ミズナ

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アオムシ	播種時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF*1 1000～2000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
ヨトウムシ	播種時	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第捕殺する。	5～6月と9～10月の2回発生する。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT*1 1000倍 エスマルクDF*1 1000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 チューンアップ顆粒水和剤*1 2000～3000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向がある。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
キスジノ ミハムシ	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤* 2000倍 スタークル顆粒水溶剤* 2000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ダイコン ハムシ	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍	
その他の病害虫		リゾクトニアによるしり腐症、カブラハバチ、クローバーハダニ	

ミズナ